

学 園 報

No.31

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/>富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

富山国際大学付属高等学校

富山短期大学付属みどり野幼稚園

URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

学園50周年へ向け、夢と力を!



理事長

金岡 祐一

(1) **富山国際学園**：多年、当然の如き「国公立優先“お上頼り”の富山気質」の硬直した知的・情性に対し、あえて福沢諭吉以来の「烈々たる私立学校の自立精神」を良しとし、率先して主張・実践してきました。希望の21世紀に本学園の50周年を迎え、あらためて富山県民の明るい未来の教育向上へ貢献すべく、新しく「夢と力」をもって決意しましょう。

(2) **富山国際大学**：①まず「就職に強い大学」を主張したい。過去5年就職率94.4%。(a)現代社会学部はキャリア支援体制を強化。平成23年度1期生97%。(b)子ども育成学部(21年度開設)は25年3月に1期生が卒業するが、県内私学で初めての小学校教員養成課程を設置。「教育と福祉のハイブリッド」との、国内希な高い目標に挑戦。9月の公立教員採用選考に6人が合格し、県内教育界の期待に応えることができました。②現代社会学部は、(a)「大学コンソーシアム富山」設立に大学として調印(富山短期大学も)。(b)県大学連携協議会教育連携部会の主管校。③子ども育成学部は、(a)第2期運営計画(平成25～28年度)をいち早く策定開始。第1期の実績に立ち、教育課程の充実、課程の再構成等、積極的目標を設置。先見的着眼と教育力に期待したい。(b)全日本大学女子野球選手権大会に富山短大との合同「トミタン」で17年ぶりに復活。フレイフレー！(c)ボランティアサークル「へそ」が大震災支援活動、等。

(3) **富山短期大学**：高校に次いで校舎改築に着手(50周年には第Ⅰ期工事までであり、理事長として申し訳なくお許しを乞う)。①食物栄養学科は例年の研修旅行を充実、入試説明会参加者も増加。②専攻科食物栄養専攻は開設以来はや8年。管理栄養士合格率80%、日本栄養改善学会で10名が研究発表は立派。③幼児教育学科は40回幼児教育研究会に320名参加。県内保育現場と全国的専門家との交流を計る本学独自の貴重な伝統で、「生涯教育の全国レベルお手本」と思う。④経営情報学科はキャリア教育にさらに注力、インターンシップ参加者94%。⑤福祉学科は全国的志願者減少の中、将来の社会的必要性を見据え、信念をもって毅然と努力を続けたい。

中学校への出前講座など草の根の努力を「希望をもって」続けましょう。必ず「明日が来る」と思う。

(4) **国際大学付属高校**：「今日から国際人」。快適な新校舎の現場で勉学に励むべし。「本校は文武両道」。①部活：

新聞部は全国高校総合文化祭で年間紙面審査部門最優秀賞。女子バドミントンは全国高校総合体育大会ダブルス準優勝。英語部は検定1級合格1名。準1級4名。ほか全国大会出場も数部門。②SELHIの成功のあと、最近、日本ユネスコ委員会から「ユネスコスクール」(異文化理解)に採用！倉田副校長を中心に、国際レベル感覚で一段と英語教育を推進したい。

(5) **短大付属みどり野幼稚園**：保育者、保護者と学生が一体となる保育実績は貴重。子ども育成学部、幼児教育学科の学生の実習やボランティア活動により、学生のキャリア支援と質向上にも貢献。

(6) **社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園**：短大主催の公開講座、お泊まり保育、家族運動会に子ども育成学部学生参加など、学園との協力が成果をあげています。

(7) **理事長**は①(a)50周年記念事業実施委員長として「募金活動」を開始。具体的目標は「学園・教育環境の一層の充実」。しかしそのスピリットは、むしろ「今後の50年」に向けわが学園が社会的使命を果たすべき「決意の表明」にあり。学園の皆様、この主旨へのご理解とご協力をお願いします。(b)会長に請われ全国大学実務教育協会・監事。わが大学、短大ともに会員校であり、ぜひ学園・教育上活用を。②個人の立場では(a)日本学術会議の旧第七部(医・歯・薬)OB会「医歯薬アカデミー」の名誉会長(会長は金沢一郎・前学術会議会長、前皇室医務主管)。(b)東大薬学部同窓会(薬友会)特別顧問(No.2)。(c)皆様の積年のご協力に感謝し、学園の将来を期待し、責任を果しつつ「卒業」したい。

CONTENTS

□学園50周年へ向け、夢と力を!

理事長 金岡 祐一 1

□特集1 学校法人富山国際学園創立50周年記念事業について 2~3

□特集2 並行在来線新駅(願海寺)設置の取組みについて 4

□平成24年度部門別学生・生徒・園児数等 5

□平成23年度卒業生進路状況 5

□平成23年度決算及び財務の状況 6~7

□学園NEWS 8

学校法人富山国際学園創立50周年記念事業について

昭和38年に学校法人富山女子短期大学として創立以来、本学園は平成25年で50周年を迎えます。この記念すべき節目の年にあたり、学園の発展に寄与された先人の功績を偲び、関係各位に深く感謝の意を表するとともに、本学園のさらなる発展の契機となる記念事業を実施します。

ロゴマーク・キャッチフレーズ



50周年キャッチフレーズ「夢を育み、地域とともに。」
 ロゴマークの意味 「上部のラインは高い知性と教養、下部は豊かな個性と限りない可能性を表す∞（無限大）を形成、風にたなびくような美しいラインで、未来に向かって伸びていくイメージを表現しています。」

50周年記念事業の実施委員会設置

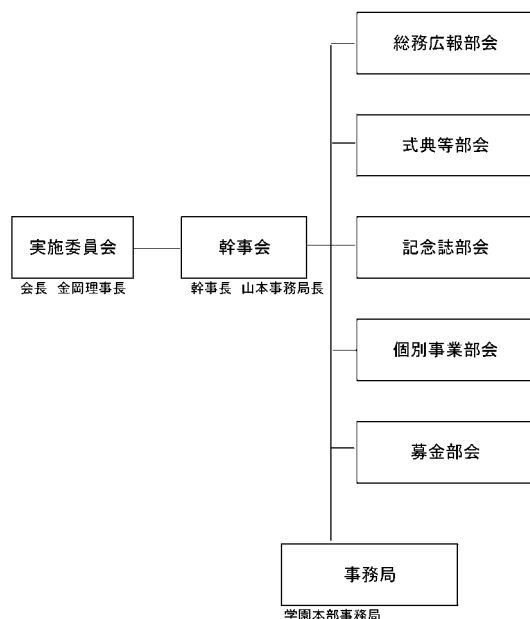
記念事業実施のため実施委員会（理事長、学長等の学園幹部と各校の同窓会長、後援会長で構成）と幹事会を設置し、さらに円滑な運営を図り目的を達成するため、5つの部会を設けました。

今後は、各部会から提出された案件を協議し、実行していきます。

実施委員会委員一覧

会 長	金岡祐一	富山国際学園理事長
副会長	中島恭一	富山国際大学長・富山短期大学長
副会長	山本 実	富山国際学園事務局長
委 員	押田 博	富山国際学園相談役
	高橋光幸	大学現代社会学部長
	宮田伸朗	大学子ども育成学部長
	尾畑納子	大学学務部長
	長尾治明	大学学長室長
	坂巻龍雄	大学事務部長
	島田健児	大学同窓会長
	松本眞明	大学後援会長
	小芝 隆	短大副学長
	宮田 徹	短大教務部長
	富岡徹久	短大学生部長
	安達哲夫	短大経営情報学科長
	栗林洋介	短大事務部長
	安川和子	短大同窓会長
	豆本 衛	短大後援会長
	中田正幸	付属高等学校長
	長沼映子	付属高校同窓会長
	河内 肇	付属高校PTA会長
	青山 仁	付属みどり野幼稚園長
	奥 祐子	付属みどり野幼稚園保護者会長

50周年記念事業実施組織図



部会構成員

総括 山本事務局長

部 会	大 学	短大・幼稚園	高 校
総務・広報部会	武藤入試センター長 若田課長	◎ 栗林事務部長 大丸課長 南係長 柳野主事	中西事務長 瀬川教諭
式典等部会	尾畑学務部長 坂巻事務部長 中島事務長 小比賀課長	◎ 小芝副学長 ○ 矢部事務部次長 ○ 関学生部次長 青山幼稚園園長 金岡主事	倉田副校長 植田係長
記念誌部会	長尾学長室長 佐藤准教授 開准教授	大西図書館長 ◎ 安達学科長 ○ 竹内学生部次長 石坂係長 江尻幼稚園主任	上野教諭 沢係長
個別事業部会	才田国際交流センター長 大藪准教授 酒井課長	◎ 富田教務部長 ○ 深井教務部次長 ○ 青山幼稚園園長 田淵専攻科長 原田学科長 安達学科長 西井学科長 吉田課長	川上教諭 横山教諭
募金部会	長尾学長室長 山崎参事 岩木課長 小比賀課長	◎ 富岡学生部長 ○ 栗林事務部長 ○ 立島教務部次長 岡田参事 古崎課長 湯上谷係長	三浦教頭 豊島教諭

※◎は、部会長 ○は、副部会長

10月13日(土) 50周年記念事業実施委員会を開催しました。

初回となる今回の実施委員会では、金岡理事長・実施委員会会長のあいさつの後、山本事務局長・幹事長より記念事業の趣旨説明があり、その後各部会から、予算・式典関係・記念誌作成・個別事業・募金等の進捗状況報告と立案された企画について協議され了承を得ました。



50周年記念事業実施委員会各部会長の言葉

○総務広報部会長 栗林 洋介

当部会では、創立50周年記念事業の予算、広報及び他の部会に属しない業務を担当しています。

予算については、これから策定することになりますが、大変厳しい学園財政の中で、いかにメリハリを付けた予算を策定するかが課題であります。

また、広報の分野では、限られた予算の中で、若者が当学園に入学したくなるような、そして、50周年を契機として今後の発展を目指す当学園の姿を広く知ってもらえるよう効果的な広報を検討します。

○式典等部会長 小芝 隆

平成25年10月17日(木)午前には式典、昼食時に祝賀パーティー、午後に記念講演を行います。

式典と講演の会場は新体育館、祝賀パーティーは新学生ホールです。部会ではこの式典等を通して、学園関係者が今後の50年に向けて心を一つにできるように、その内容の検討を進めています。特に附属高校3年生、富山短期大学2年生、富山国際大学4年生を主な対象に実施する記念講演は、これからの社会を生きていく生徒学生にとって励ましとなるように、講師の人選を進めています。

○記念誌部会長 安達 哲夫

「歴史」は「個性」です。富山国際学園の「歴史」は、誰のものでもありません。

今の学園は、先達の努力の結晶であるこの「歴史」に創られ、この「歴史」の延長に未来があります。過去・現在・未来を結ぶものはDNAです。『記念誌』の制作は、このDNAを確認する作業に他なりません。

もちろん、これからの「歴史」をつくるのは若い教職員の方々です。だからこそ、多くの若い方々に、『記念誌』の制作に係ってほしいと思います。

○個別事業部会長 宮田 徹

個別事業部会は、各部門(大学・短大・高校・幼稚園)で実施する記念事業についての企画調整を行います。個別事業のコンセプトは、記念事業を学園および各学校の存在感を地域に発信する機会とし、それぞれの特色を生かした取り組みを行うというものです。

具体的には、講演会・研究会等の公開講座や各種学校行事を「学園創立50周年記念」と銘打って、より充実した内容で実施することを基本として準備を進めています。

○募金部会長 富岡 徹久

富山国際学園では、学園創立50周年を「今後の50年」に向けてのさらなる発展の礎とするべく、教育環境の一層の充実を図りたいと思っています。そのため広く各方面のご支援をいただくべく寄付金の募集を計画しており、目標額を8千万円といたしました。教職員の皆様方も私達の富山国際学園の「今後の50年」のため、ぜひご協力をお願いします。なお募金については、所得税額から直接控除される優遇税制措置を受けることができます。

【創立30周年記念式典の様子】



50周年記念式典は平成25年10月17日(木)午前開催。著名人による記念講演等を企画します。

並行在来線新駅(願海寺)設置の取組みについて

富山国際学園「新駅設置推進協議会」

1 はじめに

願海寺地区に在来線新駅が設置されれば通学通勤の利便性が向上し、呉羽キャンパスのさらなる発展に繋がることが大いに期待できます。

このため、学園ではかねてから関係方面に設置要望を重ねてきました。新駅は学園にとって「永年の悲願」なのです。

平成26年度末には北陸新幹線が金沢まで開通し、それに伴い経営分離される並行在来線の運営を引き継ぐ第三セクター「富山県並行在来線準備株式会社」が去る7月24日に設立されました。同社で、いよいよ新駅設置の具体的検討が進められることとなります。



2 これまでの活動経緯

(1) 学園では、平成22年1月に「新駅設置推進協議会」(会長金岡理事長)を設置し、これまで委員を中心に8回の会議を行ってきました。

平成23年6月には、協議会で呉羽キャンパスの学生生徒・教職員全員(約1800人)を対象に需要調査を行い、「45%が新駅を利用する」との結果が出ています。

(2) 平成24年3月3日に地元自治会を中心に「新駅(願海寺)期成同盟会」が発足し、短大体育館で開催された設立総会には約700人(うち学園教職員学生生徒170人)が集まり、地元選出国會議員全員が本人出席されるなど大変熱気に満ちた大きな大会となりました。新駅への地域の期待の大きさが伺えます。

金岡理事長は、挨拶で「本日期成同盟会が発足し新駅実現に向けて大きな一歩を踏み出したことは誠に喜ばしく、学園は今後とも『地域に根差した学園』として皆様とともに積極的に新駅に取り組んでいく」と力強く述べられました。

(3) その後、同盟会役員が3月15日に県知事、富山市長、県議会議長、市議会議長に、8月9日に第三セクター社長(県副知事)に、8月29日に同会社神田副社長(富山市副市長)に陳情を行いました。地元選出全県市議會議員が同

行し、学園からも山本常務理事が参加しています。

(4) 10月13日には新潟県三セク社長による講演会(於短大大講義室)が開催され、近々には先進地視察が予定されるなど勉強会も活発に行われています。

3 新駅設置の見通し

(1) 新駅設置には、「都市計画決定」の法的手続き等多くの課題があり決して楽観を許しません。

平成23年度に県が実施した「新駅立地調査」では採算性可能と評価されたのは、「富山～東富山」「高岡～西高岡」の2地区であり、残念ながら願海寺は含まれませんでした。

(2) しかし、呉羽キャンパスは教職員学生等約2000人を擁し昼間人口が多いこと、新駅予定地は田園地帯で開発余地が高いことなど「願海寺」には多くのメリットがあります。先の立地調査での駅乗降客数(定住人口推計)は、「願海寺」は784人で、「高岡～西高岡」の813人(開発想定後)と遜色ありません。

(3) 「通学利便性」は学校選択の大きな要素の一つです。創立50周年を迎え「新たな発展」を期す学園にとって新駅が起爆剤となるでしょう。

当協議会では、今後とも期成同盟会と連携を図りながら新駅誘致に向けて精力的に活動を進めていきます。教職員の皆様のご協力をお願いします。

)))))) 平成24年度部門別学生・生徒・園児数等 (((((((

平成24年5月1日現在(単位:人)

部 門	学部・学科名等	収容定員 (A)	1年	2年	3年	4年	合 計 (B)	定員充足率 (B/A)	備 考
大 学	現代社会学部	490	106	98	131	111	446	91.0%	
	子ども育成学部	330	82	76	76	66	300	90.9%	
	小 計	820	188	174	207	177	746	90.9%	
短 大	食物栄養学科	160	90	87			177	110.6%	
	幼児教育学科	160	93	94			187	116.8%	
	経営情報学科	200	113	120			233	116.5%	
	福祉学科	140	60	41			101	72.1%	
	専攻科食物栄養専攻	30	18	14			32	106.6%	
	小 計	690	374	356			730	105.7%	
高 校	全日制普通科	735	370	238	218		826	112.3%	
幼 稚 園		84	3歳児 36	4歳児 40	5歳児 30		106	126.1%	
総 計		2,329	968	808	455	177	2,408	103.3%	

)))))) 平成23年度卒業生進路状況 (((((((

大 学

平成23年度卒業生（115名）の就職決定率は95.8%でした。特に現代社会学部は、第一期生ということもあり注目を浴びましたが、96.8%とまずは順調な滑り出しとなりました。従来の就職分野（製造・商業・サービス業が主要3分野）に加えて、情報通信業（NHK）などの新規分野も開拓する事が出来ました。進学者数は4名で昨年並みでした。平成24年度は子ども育成学部の第一期生66名が卒業予定です。

平成24年5月31日現在(単位:人)

学 部	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	決 定 率	進学者数
現 代 社 会	113	94	91	96.8%	4
国 際 教 養	1	1	0	0%	0
地 域	1	1	1	100%	0
合 計	115	96	92	95.8%	4

短 大

平成23年度卒業生の就職決定率は、食物栄養・幼児教育・福祉の各3学科ともそれぞれ100%、経営情報学科で96.2%、全体で98.8%となりました。四年制大学への編入学は、富山大学4名、高崎経済大学1名と私立大学への3名でした。

平成24年5月31日現在(単位:人)

学 科	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	決 定 率	進学者数
食 物 栄 養	89	82	82	100.0%	3
幼 児 教 育	92	89	89	100.0%	1
経 営 情 報	115	106	102	96.2%	9
福 祉	57	53	53	100.0%	1
合 計	353	330	326	98.8%	14
専 攻 科 食物栄養専攻	8	7	7	100.0%	—

高 校

昨年度の進路選択の特徴は四年制大学志向が高かったことです。概ね、四大5・短大2・専門2・就職1の比率でした。県内志向が低くなり、東京方面にこだわり、難関校に合格する生徒が増えました。また、資格が取得できる学部・学科を選んでいます。就職は1度目がだめでも諦めず、再挑戦で全員が合格することができました。

平成24年5月31日現在(単位:人)

大 学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	そ の 他	入学者	合格者	卒業生
富山国際大学	24	37	富山短期大学	29	34	専修・各種学校	53	53	235
国 公 立 大 学	12	13	国公立短期大学	0	0	就 職	29		
他 の 私 立 大 学	69	124	他の私立短期大学	8	9	そ の 他	11		
計	105	174	計	37	43	計	93		

平成23年度 決算及び財務の状況

平成23年度の事業報告及び決算は、去る5月29日開催の評議員会・理事会において承認されました。決算の概要は、消費収支計算書（1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの）において、消費収入の部で帰属収入合計が2,636百万円（対前年度比139百万円増・5.6%増）、消費支出の部で消費支出合計が2,641百万円（同41百万円減・1.5%減）、基本金組入額合計が447百万円（同349百万円増・356.1%増）で、消費支出超過額（いわゆる赤字）は452百万円となりました。この結果、平成22年度繰越消費支出超過額2,184百万円に、平成23年度消費支出超過額を加えた2,636百万円が平成24年度への繰越消費支出超過額（累積赤字）となりました。

収入の主なものは、学生生徒等納付金が大学子ども育成学部の学年進行及び高校の在学者数の増により1,764百万円（対前年度比69百万円増・4.1%増）、補助金が大学のバリアフリー補助金等の減などにより552百万円（同37百万円減・6.3%減）、事業収入が78百万円（同4百万円増・5.4%増）となりました。なお、雑収入160百万円（同109百万円増・213.7%増）の主な内容は、退職者に係る退職資金の交付金であるため、収支にはほとんど影響を与えません。

一方、支出の主なものは、人件費では、退職者の増などにより1,714百万円（対前年度比95百万円増・5.9%増）、教育研究経費が776百万円（同33百万円減・4.1%減）、管理経費が132百万円（同14百万円増・11.9%増）となりました。

学園全体として大幅な赤字決算が続いている最大の要因は、大学の経常収支の悪化にあります。大学は、基本金組入前の帰属収入（学校の負債とならない収入）で、消費支出が賄えない状態が続いています。このような状況が続くと、新規の施設設備投資を行うことは非常に難しくなることは言うまでもなく、経常経費の支払いについても自己資金を取り崩していなければなりません。現在、呉羽キャンパスでは、老朽化校舎の改築事業に取り組んでいますが、経常収支で黒字を出さなければ、この事業そのものが投機的であると捉えられるおそれもあります。

この状況を打開するために、大学では平成20年度から改組再編計画を実施し、経営改善に取り組んでいます。大学の収支の悪化は、学園全体の存続に大きく影響することを念頭に、改組再編計画を着実に実施し、学園存続のための財務基盤を築くことが重要です。

そのために必要なことは、まずは学生を定員通り安定的に確保することです。大学全入時代を迎えて、大学間の競争が激化し、学生が大学を選ぶ時代へと変化しています。学生に選ばれる大学となるために重要なのは「独自性」と「地域連携」だと言われています。本学がアピール出来る特色とは何か、これを全教職員が真剣に検討し、地域の学生が本学で学びたいというカリキュラムを構築し、地域の学生を受け入れ、十分な付加価値を付けて地域に還元することこそが、本学が存続する意義であり、地域への期待に応えることとなります。

また、教員の持つ知的資産は、大学にとっては重要な資産です。これを地域に広く還元することも、大学の教育の質向上に役立つと共に、地域にとっても重要な資産であることを証明しなければなりません。そのためには、補助金をはじめとする外部資金を積極的に獲得し、教育の質を証明しなければなりません。当然、これら外部資金の獲得は、学園にとって、大きな経済的効果を及ぼすことも言うまでもありません。

また、安定的収入の確保と共に取り組まなければならないのは、経費の削減です。中でも支出の大部分を占める人件費については、固定費であるがために、削減は容易ではありませんが、教職員のモチベーションを下げることなく人件費の削減が出来るような仕組み作りにも積極的に取り組む必要があります。また、人件費以外の経費についても、不要不急の経費削減に努めることで、収支の改善を実現させなければなりません。

資金収支計算書（1会計年度のすべての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの）においては、平成23年度の収支状況を資金面の流れで見ると、収入額は平成24年度生の前受金や平成23年度末の未収入金等も含めて3,159百万円（対前年度比246百万円減・7.2%減）となり、前年度から繰り越した1,129百万円（同220百万円増・

消費収支計算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

(単位:百万円)

		23年度予算	23年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①―②
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,735	1,764	1,695	69
	手数料	33	34	34	0
	寄付金	3	16	7	9
	補助金	573	552	589	△37
	資産運用	34	32	47	△15
	資産売却差額	1	0	0	0
	事業収入	78	78	74	4
	雑収入	175	160	51	109
	帰属収入合計	2,632	2,636	2,497	139
	基本金組入額	△288	△447	△98	△349
消費収入の部合計	2,344	2,189	2,399	△210	
消費支出の部	人件費	1,783	1,714	1,619	95
	教育研究経費	833	776	809	△33
	管理経費	152	132	118	14
	借入金等利息	3	3	4	△1
	資産処分差額	16	16	132	△116
	予備費	9			
	消費支出の部合計	2,796	2,641	2,682	△41
	消費支出超過額	△452	△452	△283	△169
前年度繰越消費支出超過額	△2,184	△2,184	△1,901	△283	
翌年度繰越消費支出超過額	△2,636	△2,636	△2,184	△452	

資金収支計算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

(単位:百万円)

	23年度予算	23年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①—②	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,735	1,764	1,695	69
	手数料収入	33	34	34	0
	寄付金収入	2	7	4	3
	補助金収入	573	552	589	△37
	資産運用収入	34	32	47	△15
	資産売却収入	1	0	0	0
	事業収入	78	78	74	4
	雑収入	175	158	48	110
	借入金等収入	0	0	1	△1
	前受金収入	470	454	439	15
	その他の収入	526	679	997	△318
	資金収入調整勘定	△464	△599	△523	△76
	当年度収入合計	3,163	3,159	3,405	△246
	前年度繰越支払資金	1,129	1,129	909	220
収入の部合計	4,292	4,288	4,314	△26	
支出の部	人件費支出	1,779	1,742	1,629	113
	教育研究経費支出	550	499	534	△35
	管理経費支出	150	130	116	14
	借入金等利息支出	3	3	4	△1
	借入金等返済支出	57	57	30	27
	施設関係支出	453	444	905	△461
	設備関係支出	51	41	60	△19
	資産運用支出	65	227	148	79
	その他の支出	475	475	231	244
	予備費	16			
	資金支出調整勘定	△236	△387	△473	86
	当年度支出合計	3,363	3,231	3,184	47
	次年度繰越支払資金	929	1,057	1,129	△72
	支出の部合計	4,292	4,288	4,313	△25

24.2%増)を加えると、収入合計は4,288百万円(同26百万円減・0.6%減)となりました。

一方、支出額は人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等利息支出、借入金等返済支出、施設設備関係支出などで3,231百万円(同47百万円増・1.5%増)となり、差し引き1,057百万円(同72百万円減・6.4%減)が翌年度への繰越支払資金となりました。

貸借対照表(年度末における資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額など)の状態を表すもの)において、学園の財務状態を見ると、平成23年度末現在の資産総額は12,386百万円で、その内訳は有形固定資産(土地、建物、備品など)7,530百万円、その他の固定資産(特定資産、引当資産など)3,622百万円、流動資産(現金預金、未収入金など)1,234百万円となりました。

一方、負債総額は1,588百万円で、その内訳は固定負債(長期借入金、退職給与引当金)707百万円、流動負債(短期借入金、未払金、前受金など)881百万円となりました。

また、基本金は13,434百万円となり、その内訳は第1号基本金(設立当初に取得した固定資産並びにその後新たに取得した固定資産の自己資金による支払済額)が12,425百万円、第2号基本金(将来取得する固定資産の取得に充てる金銭等の資産額)が800百万円、第3号基本金(基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭等の資産額(奨学金基金など))が13百万円、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金額(資金的な消費支出の1ヶ月分に相当する運転資金))が196百万円となりました。

これにより、翌年度繰越消費支出超過額は2,636百万円となりました。

学校別収支の状況を見ると、消費収支差額では、昨年度に続いて、短大以外の各校は、全て赤字決算となっています。帰属収支差額(基本金組入前の経常収支)でも、大学及び幼稚園は赤字決算となっています。予てより、大学及び幼稚園の慢性的な赤字体質からの脱却が急務であることは、度々指摘されていますが、体質改善されていないのが現状であると言わざるを得ません。特に大学は、子ども育成学部が学年進行中ですが、平成24年度には全学年の学生が揃う完成年度を迎え、平成25年度からは子ども育成学部も経常費補助金の補助対象となることから、経常収入としては、ほぼ見込めることとなります。従って、収支の均衡を達成するためには、人件費をはじめとした経常支出

の削減や効率的執行が必要不可欠となります。また、幼稚園においても、園舎の老朽化対策を施すためには、計画性をもってこれに取り組まなければなりません。

また、黒字決算となった短大においても、平成24年度から本格的に校舎改築計画が実施されることから、より一層の収支改善が必要となります。

18歳人口の減少や超高齢化社会の到来など、私学を取り巻く環境は、特に地方小規模の私学にとっては、ますます厳しさを増しており、今後さらに厳しくなることが予想されます。しかし、本学園はどのような厳しい環境下であろうとも、今後とも進化と前進を続けなければなりません。平成25年に学園創立50周年の節目を迎える本学園は、50年の長きにわたって本学園を支え、見守って下さった地域への感謝の念を忘れることなく、さらに「地域に根ざした総合学園」としてますます発展していくことで、今後も支援していただけるよう全力を挙げて諸課題に取り組まなければなりません。

貸借対照表

平成24年3月31日

(単位:百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部			
固定資産	11,152	11,342	△190
有形固定資産	7,530	7,330	200
その他の固定資産	3,622	4,012	△390
流動資産	1,234	1,208	26
資産の部合計	12,386	12,550	△164
負債の部			
固定負債	707	769	△62
流動負債	881	978	△97
負債の部合計	1,588	1,747	△159
基本金の部			
基本金の部合計	13,434	12,987	447
消費収支差額の部			
消費収支差額の部合計	△2,636	△2,184	△452
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,386	12,550	△164

消費収支計算書内訳表

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

(単位:千円)

	学園本部	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額		学園本部	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額
消費収入の部							消費支出の部						
学生生徒等納付金	0	710,828	704,461	322,071	26,424	1,763,784	人件費	22,288	660,229	595,702	389,435	46,148	1,713,802
授業料	0	379,477	349,830	242,407	19,567	991,281	教員人件費	0	469,418	366,684	310,495	37,720	1,184,317
入学金	0	58,535	84,510	41,856	1,530	186,431	職員人件費	20,888	177,908	144,299	35,960	11	379,066
実験実習料	0	32,191	46,281	0	0	78,472	役員報酬	600	0	0	0	0	600
施設設備資金	0	171,875	153,890	33,857	1,737	361,359	退職金	550	12,903	84,719	41,134	8,402	147,708
その他の納付金	0	68,750	69,950	3,951	3,590	146,241	退職給与引当金繰入額	250	0	0	1,846	15	2,111
手数料	0	10,374	14,815	9,069	48	34,306	教育研究経費	0	388,498	216,028	150,723	21,134	776,383
寄付金	250	8,895	2,356	3,361	588	15,450	管理経費	12,315	68,361	36,022	14,383	655	131,736
補助金	0	167,565	128,841	236,894	18,676	551,976	借入金等利息	0	1,893	670	550	0	3,113
資産運用	28,440	1,594	1,791	295	0	32,120	資産処分差額	0	198	1,985	14,151	0	16,334
資産売却差額	0	0	0	0	0	0	消費支出の部合計	34,603	1,119,179	850,407	569,242	67,937	2,641,368
事業収入	0	17,936	32,817	21,870	5,734	78,357	当年度消費収入支出超過額	△6,203	△238,291	431	△199,536	△8,953	△452,552
雑収入	183	22,876	87,281	41,495	8,434	160,269	前年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△2,183,878
帰属収入合計	28,873	940,068	972,362	635,055	59,904	2,636,262	翌年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△2,636,430
基本金組入額	△473	△59,180	△121,524	△265,349	△920	△447,446							
第1号基本金	△467	△59,180	△71,524	△265,349	△920	△397,440							
第2号基本金	0	0	△50,000	0	0	△50,000							
第3号基本金	△6	0	0	0	0	△6							
消費収入の部合計	28,400	880,888	850,838	369,706	58,984	2,188,816							

富山国際大学

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に選定されました

この度、文部科学省の標題事業（平成24年度新規事業）に、本学をはじめとする北陸地区6高等教育機関を含む中部地域23校が、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化、②地域・産業界との連携力の強化をメインテーマにした「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」という取組が選定されました。

本事業は、産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実が図られるよう、国として財政支援を行うことにより、幅広い職業人養成に比重を置く大学の機能別分化に資することを目的としています。

平成27年3月まで続くこの事業によって、より本学の教育力、地域・産業界との連携力を高めてまいります。

富山短期大学

実践的な知識の習得に向けての取り組み

経営情報学科では、地域社会を支える職業人の育成に尽力しています。特に、ビジネス社会において簿記・会計は、業種を問わず必須の知識です。社会的評価の高い「日商簿記検定」は、簿記・会計の実践的なスキルの高さを証明するものであり、多くの学生が積極的に挑戦しています。検定の合格者数は、平成22（2010）年度：3級15名（12.8%）、平成23（2011）年度：3級18名（15.7%）から、平成24（2012）年度：3級55名（45.5%）と飛躍的に向上しています。本学から簿記・会計の実践的なスキルの基本を身につけた人材を、より多く輩出できるようになったことは、学科にとっても地域社会にとっても大変喜ばしいことです。今後とも資格取得率の向上に向けて指導の改善を続け、豊かな人間性と実践知、実践力を伸ばし、時代のニーズに沿った人材の育成に努めていきます。

富山国際大学附属高等学校

校内にあふれる中学生の声



8月22日（水）の第1回オープンキャンパスには、408名の過去最多の中学生が本校を訪れました。また、10月6日（土）の第2回目には151名が参加しました。（2回合計の最多は350名、1回だけでは250名）

中学生は、国際英語・部活動・英語以外の教科など、本校の特色ある学校生活を体験しました。参加者は、「楽しかった」「学校の雰囲気がよくわかった」「国際高校で英語を勉強したいと思った」などの感想を述べてくれました。

過信は禁物ですが、平成25年度の生徒募集活動も順調にスタートしたという感触を得ています。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

みんなで流しソーメン

9月9日（日）、呉羽青少年の家にて、父親の会遊び大会を開催しました。開催にあたって、お父さんたちが何度か集まって準備を進め、当日は、200名を超える親子の参加となりました。ザリガニ釣りに始まり、イカダに乗ったり、ターザンロープから飛び込んだりする池遊び、そして、保育士をしている園児のパパによる歌遊びやゲーム遊びなど、とても楽しい会となりました。圧巻は、みんなで行った流しソーメン。1時間以上もかけ、汗だくになってパパたちが大量のソーメンをゆでてくれました。流れてくるソーメンを「おいしい!」といって食べる子どもたちの表情はとてもうれしそうでした。

